

**搾乳手順の意味を意識し
作業精度を高めましょう！**

搾乳作業は単に生乳を出荷するだけでなく、乳房炎や乳価を左右する重要な作業です。しかし乳房炎多発経営では優良経営に比べて搾乳作業の精度が低く、家族がバラバラな例を多く見かけます。手順の早さよりも1つ1つの作業精度を家族や従業員が意識し、乳房炎予防につなげましょう。乳房炎で3割の牛の生乳を廃棄していた牧場を、「全頭出荷と体細胞数10万以下の両立」を2年以上実践できるまで支援した事例から搾乳作業のポイントを紹介します。

① ニトリルゴム手袋の装着

★素手は殺菌しにくい
皮膚や爪の汚れを完全に殺菌することは困難で菌の伝染につながるため、使い捨てできる手袋の装着は必須です。

② プレディップ

★乳頭全体を殺菌
専用薬剤とノンリターナティブで乳頭全体を殺菌します。スプレーは確実性が劣

るので使用をやめましょう。



スプレーディップ使用農家では裏側から見ると薬剤が全く付いていない例が多い

③ ストリップカップに前搾り

★生菌数の多い乳の排泄
★異常乳の早期発見
★オキシトシンの分泌促進
前搾りすることで、殺菌効果が高まり、汚れも浮きやすくなります。搾った乳汁は汚染源となるので、牛床への廃棄はやめましょう。

④ 先端を意識した乳頭清拭

★汚れを落とし生菌数低減
バルク乳スクリーニング検査では乳房炎由来とは別に、糞便由来の大腸菌が生菌数に多く検出される例があります。乳頭清拭時に目線が乳頭に向いていない人や中腰でササッと済ませる人が多いため、乳頭口もしっかり拭けるよう、

腰を下ろし両手を添えて丁寧に拭くことをお勧めします。



腰を落とし乳頭先端を目視して拭くことがポイント

⑤ ミルカー装着

★全ての牛が適期に装着
オキシトシンの分泌が最大に達する、前搾りから1分30秒後に全ての牛が同じタイミングで装着するには、クッキングタイマーの活用が有効です。装着後はユニットを押し下げたり、乳房を揉んだりせず、ねじれの無いよう調整後速やかに牛から離れましょう。



100円ショップのタイマーで十分。鳴ったら自動で設定時間に戻る機能付きが便利

⑥ 離脱後のポストディップ

★ミルクフィルムの除去
搾乳中に乳頭についていた生乳は病原菌の栄養源になります。ディップ時は乳頭表面の生乳を落とすイメージで乳頭全体をカバーし、出した薬剤を1頭ごと尿溝に廃棄します。殺菌時間確保のため搾乳後は牛がすぐに寝ないように十分に飼料を与えておきましょう。



先端しか薬剤をつけない例も見かけますが、乳頭全体をしっかりとカバーしましょう

【農家の声】

夫：新規の乳房炎がなくなり慢性的な牛の体細胞数も減ったので、取り組んだ甲斐があった。
妻：冬でも乳頭表面の肌荒れがなくなり触感が良くなったので、毎日の作業が楽しくなった。